

・・・追悼・桑原 淳先生を偲んで・・・

桑原先生は、平成20年8月4日、関係の皆様方に惜しまれつつ84歳を一期に永眠されました。先生を偲ぶ拙文を書くにあたり、あらためてご冥福をお祈り申し上げます。

年度が変わった平成21年4月17日、私は、約8ヶ月ぶりに練馬区石神井のご自宅に伺い、ご焼香させていただきました。その折、奥様より先生の生前のお話を聞きする貴重な機会を得ました。その折の聞き書きなどをも織り交ぜて書かせていただきます。

伺った日、通された部屋の一隅に、20年8月4日付けで従五位及び瑞寶小綬章の叙位・叙勲を追贈されたことを示す認証状が掲げられているのを目の当たりにし、先生が教育界で果たしてこられた貢献の大なることを、あらためて実感した次第であります。

大正13年、中越地震の被災地で知られた山古志村に程近い所のお生まれと聞きましたが、おもには長野県との県境に位置する新潟県津南町で成長されたとの事です。お父上は当地で医業を営んでおられたそうです。学校時代は、十日町にある旧制十日町中学校（県立十日町高等学校）まで、飯山線で通学。有数の豪雪地帯津南町のこと、降雪期の通学には難儀もさぞかしと、その苦労ほども偲ばれます。また当時は、日中戦争に続き欧米列強との戦雲も急を告げる頃であったことも併せ考えると、戦時下、山間の地で青年期を過ごした一青年のありかた、その青春がどのようなものであったのかも興味が引かれます。

先生が大東文化学院に入学されたのは昭和17年4月1日、ご自身でまとめられた履歴を拝見すると、本科国語漢文科2部、昭和19年9月13日卒業となっております。9月13日卒業というのは、いかにも中途半端な日付で、思うに、戦局が退勢に向かい悪化の一途をたどっていた時期でもあり、繰り上げ卒業の措置が取られたためと推測されます。私事で恐縮ですが、桑原先生が本校で校長をされていたある日、校長室へ呼ばれたことがありました。本題の用件は忘れましたが、その折、先生が私の父のことを話題にされました。それは、先生が大東文化学院在学中のことで、父が軍事教練の教官として本学に来て、教練でしごかれたというものでした。私の父も大東文化学院本科6期、高等科19期の卒業生です。この時、父は応召の陸軍大尉として学院での軍事教練を担当したので、先生との出会いがあったということだと思われます。戦争当時ならではのお話がありました。

学院卒業後は、東洋大学文学部を出られ、昭和22年から27年まで、郷里の小千谷旧制中学校、母校十日町高校で教鞭を取られ、その後上京、都立高校の教員採用に合格し、昭和51年、都立板橋高校教頭、57年、同四谷商業高校校長を経て、60年4月から本校副校長として赴任、63年から平成3年3月の定年まで校長として勤務されました。民謡や短歌など趣味人としても幅広く、勤務した学校の生徒からも慕われ、幾組もの仲人も引き受けられたと聞きました。先生は折に触れて「教員の道を選んでよかったです」とおっしゃっておられたということを奥様から伺うに付けても、そのお人柄が偲ばれます。

(大東文化大学第一高等学校・校長 安生 高明)

【大東アーカイブス活動記録】(2008年10月～2009年3月)

- | | |
|---|--|
| 10. 2 企画展入替作業 | 1. 22 全国大学史資料協議会東日本部会幹事校会・研究会参加
(於：武蔵野美術大学) |
| 10. 6 第6回企画展「大木遠吉と大東文化協会」公開 | 1. 24 自校教育シンポジウム参加 (於：立教大学) |
| 10. 9 全国大学史資料協議会全国大会参加
(於：琉球大学及沖縄県立文書館、～11日) | 1. 31 「大学アーカイブスに関する研究会」参加 (於：京都大学) |
| 10. 19 財団法人無窮会へ資料調査 | 2. 17 岡山県津市へ平沼騏一郎関係資料調査 (～18日) |
| 11. 22 同志社大学特別展シンポジウム参加 (於：同志社大学) | 3. 5 歴史資料館運営委員会 |
| 11. 28 大木吉甫氏本学来校 | 3. 19 全国大学史資料協議会東日本部会幹事校会・研究会参加
(於：武蔵野美術大学) |
| 11. 30 ニューズレター『大東文化歴史資料館だより』vol. 5 発行 | 3. 21 長野県上田市へ卒業生（細川武敏氏）インタビュー調査
(～22日) |
| 12. 3 「私立大学アーカイブズの未来」講演会参加
(於：早稲田大学) | 3. 30 「キャンパスの変遷」パネル展示室設置 |
| 12. 11 全国大学史資料協議会東日本部会幹事校会・研究会参加
(於：東洋学園大学) | |